

釧路湿原川レンジャー News

2024 Vol.5

第4回「釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました！

「第4回釧路湿原川レンジャー学習会」を令和7年1月29日(水)に開催し、17名の方が参加しました。午前中はヌマオロ地区旧川復元事業地において、釧路湿原自然再生事業に関わる旧川復元工事現場を見学しました。午後は、鶴居村ふるさと情報館みなくるにて今年度の川レンジャー活動の振り返りを行い、その後、釧路市丹頂鶴自然公園へ移動し施設を見学しました。



作業現場をバックに記念撮影



■ ヌマオロ地区旧川復元事業地の見学

ヌマオロ川は、1973～'82年の直轄明渠排水事業で整備され、直線河道となりました。これにより周辺地域が農地として利用できるようになりましたが、一方で河川環境は大きく変わり、川周辺の湿原環境の減少がみられるようになりました。そこで、「釧路湿原中心部への土砂流出の軽減」「氾濫原の再生による湿生植物の再生」「ヌマオロ川本来の魚類などの生息環境の復元」「湿原景観の復元」の4つを目標に、本来の蛇行した河川に戻す工事が進められています。



旧川復元事業に関する説明の様子



熱心に見学する川レンジャー

現地では釧路開発建設部の職員と工事を請け負う業者の方から、事業や工事の概要などについて説明がありました。参加した川レンジャーからは「なぜ冬の時期にしか工事をしないのですか」「直線だった河川はどうするのですか」などの質問が寄せられていました。なお、工事が順調に進めば、今年の3月に旧川へ河川の流れを切り替える予定です。

現地では釧路開発建設部の職員と工事を請け負う業者の方から、事業や工事の概要などについて説明がありました。参加した川レンジャーからは「なぜ冬の時期にしか工事をしないのですか」「直線だった河川はどうするのですか」などの質問が寄せられていました。なお、工事が順調に進めば、今年の3月に旧川へ河川の流れを切り替える予定です。



川レンジャー活動の振り返り



令和6年度の川レンジャー活動の振り返りを行い、観察報告や学習会の様子などが紹介されました。参加した川レンジャーの方々から、意見や感想などを伺いました。

- 不法投棄について報告したが、後日通った際に片付けられていて、報告が役に立ってよかったと感じた。
- ささいなことでも報告を出してみようと思った。
- 右岸堤防を歩いて観察報告を出したいと思う。
- 学習会は体験したことがないものばかりで、大変勉強になった。

釧路市丹頂鶴自然公園の見学

釧路市丹頂鶴自然公園は、タンチョウを保護増殖するため、1958年8月、釧路市鶴丘に開園されました。今年で開園66周年となり、現在は11羽のタンチョウが保護されています。収容するためのケージがいくつかあり、各ケージには単独または夫婦でタンチョウが暮らしています。それぞれのタンチョウには名前がついていて、名前の由来は保護された地域がもたることが多いそうです。ずっとこちらを威嚇してくるタンチョウや名前を呼ぶと寄ってくるタンチョウなど、個性豊かです。



解説に聞き入る川レンジャー



熱心に観察する川レンジャー

丹頂鶴自然公園の職員さんからの解説つきで施設を見学しました。タンチョウの基本的な生態や普段のケージの中での様子、各個体の性格などについて教えていただき、卵の殻や羽の実物も見ることができました。見学中は、川レンジャーがタンチョウの名前を呼んだり、「卵を抱く時期になると、卵が当たる部分の羽毛がなくなると聞いたのですが、どうでしょうか」といった質問が寄せられたりしていました。寒い中での見学でしたが、皆さん楽しまれました。

観察活動の報告

川レンジャーより観察活動の報告がありましたので、ご紹介します。観察活動は川レンジャー活動の柱であり、釧路湿原の河川環境維持に大変役立っています。今後も釧路湿原川レンジャーNewsで紹介していきますので、皆様からの報告をお待ちしております。

報告日	報告内容
2024年10月10日	ウォーキング中に子グマを目撃しました。はじめは犬かと思ったのですが、子グマでした。1匹はすぐにヨシの中に戻り、もう1匹はこちらに気づかない様子でヨシの茂みに入っていました。熊鈴を忘れずに持参していれば、こちらの存在に気づき子グマは目撃されずに済んだのかもしれませんが。
2024年12月17日	幣舞公園花時計のわきの木にオオワシがとまっていました。

